



Dr.Salmon Newsletter

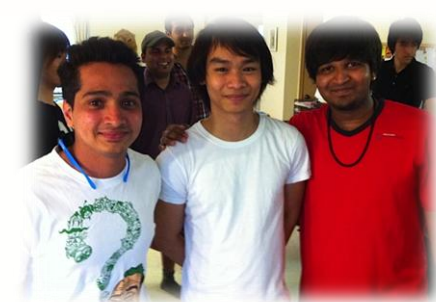
World News & Views

-Letters from Dr.Salmon, NSU-

Dear readers,

2年前の地震と津波による甚大な被害に直面した人たちのことを考えています。復興作業は進んでいるとは思いますが、東北の多くの地域ではまだ十分とはいえないと思っています。大震災の前の状況まで出来るだけ早く回復することを祈っています。

アメリカの大学では今週(3月18~22日)は春休みです。Northeastern State University (NSU) もそうです。アメリカ人の学生たちは帰省したり旅行に行ってしまうので、キャンパスは閑散としています。大学生が春休みに訪れる人気スポットは、コロラドでの春スキーや南の地域の海水浴場などです。日本人学生の多くはフロリダやニューオーリンズに行くようです。キャンパスに残っているのは、他の海外からの学生たちです。大部分はインド人の学生です。昨日、彼らを私の家族のディナーに招待しました。彼らの国や文化について学べて楽しかったし、みんなで最高の時を過ごしました。



今月のニュースレターでは、アメリカのコンタクトレンズ専門誌に書かれていた世界のコンタクトレンズ処方についての記事をご紹介します。世界の他の国々と比べて日本のコンタクトレンズ処方状況がどのようなものなのか興味がおありなのではないでしょうか。

Thomas O. Salmon, OD, PhD, FAAO
Professor, Northeastern State University

Enhance
Program

VIA AIR MAIL

SUMMARIES OF RECENT ARTICLES

世界のコンタクトレンズ処方状況(2012年) International Contact Lens Prescribing in 2012 Contact Lens Spectrum, January 2013

アメリカのコンタクトレンズ専門誌 Contact Lens Spectrum は毎年世界中の国々でコンタクトレンズ処方の調査を行っています。昨年の調査では 36 カ国から 20,566 通の調査票が集まりました。眼科医は、調査票を受け取って最初の 10 症例に関する情報を調査票に記入し、返信しました。調査結果のいくつかを表とグラフにまとめました。円グラフは、Contact Lens Spectrum のデータを基に作成しましたので、日本とアメリカや他の国々との違いがわかると思います。

表 1. 各国の基礎データ (一部)

	調査票(症例数)	平均年齢(才)	女性の比率(%)
日本	4,847	30.7	69%
アメリカ	296	33.7	61%
韓国	278	24.7	76%
イギリス	755	36.7	66%
オーストラリア	592	36.0	65%
台湾	1,574	26.6	83%
スペイン	782	31.5	45%
ペルー	130	29.1	58%
全体	20,566	31.7	67%

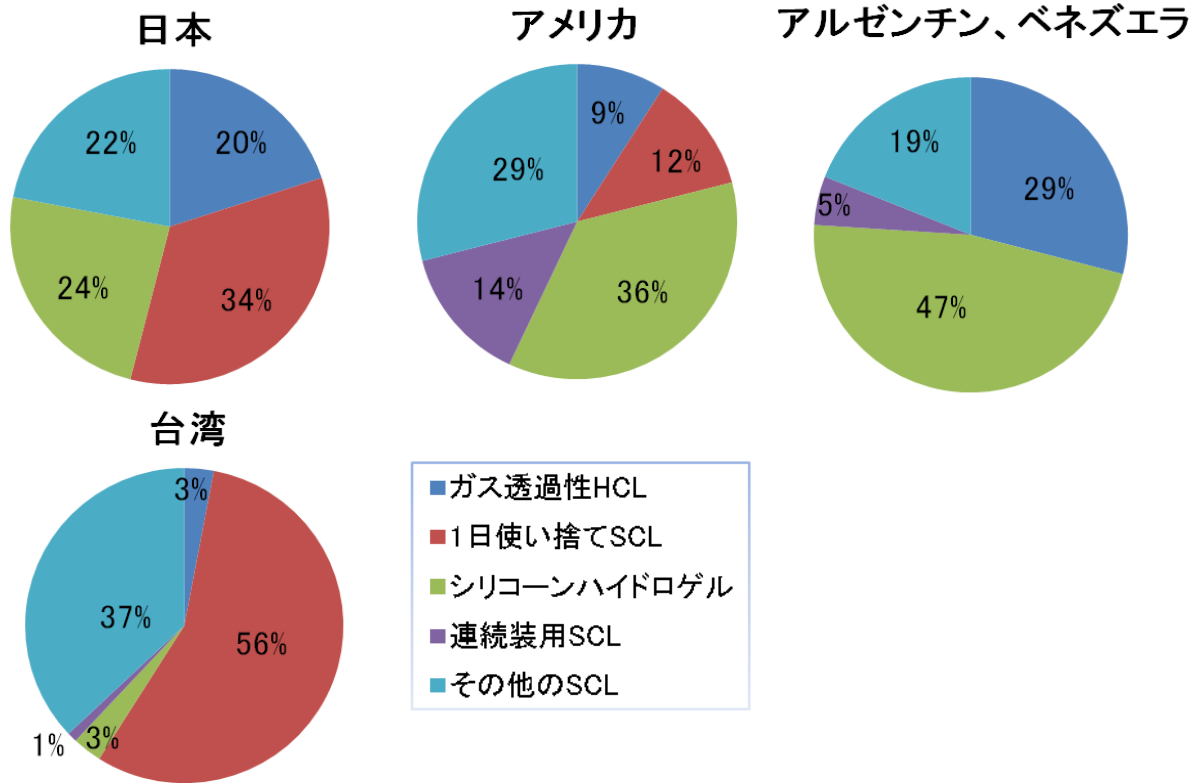


図 1. 日本、アメリカ、アルゼンチン／ベネズエラ、台湾のコンタクトレンズ処方内訳

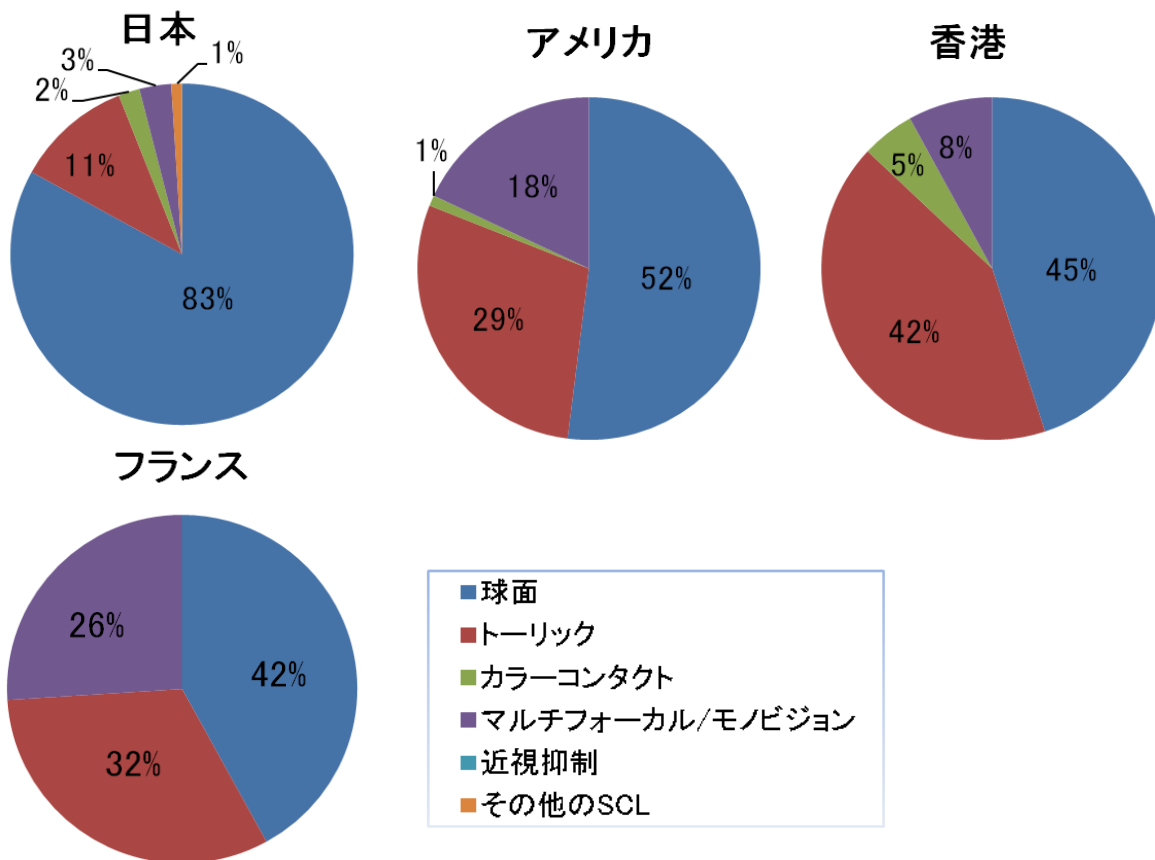


図 2. 日本、アメリカ、香港、フランスのソフトコンタクトレンズ処方内訳

香港はトーリックレンズの処方割合の高い国の一つで、トーリックはソフトレンズの 42%に処方されています。この記事によると、患者の約 45%に 0.75D 以上の乱視があるにもかかわらず、多くの国ではトーリックレンズが十分活用されていないとのことです。日本でトーリックレンズは 11%しか処方されていません。フランスはマルチフォーカル/モノビジョンの処方割合が高く、26%でした。これらのことから、日本を含む多くの国でトーリックレンズやマルチフォーカルレンズにおいては今後成長していく可能性を秘めているといえるでしょう。

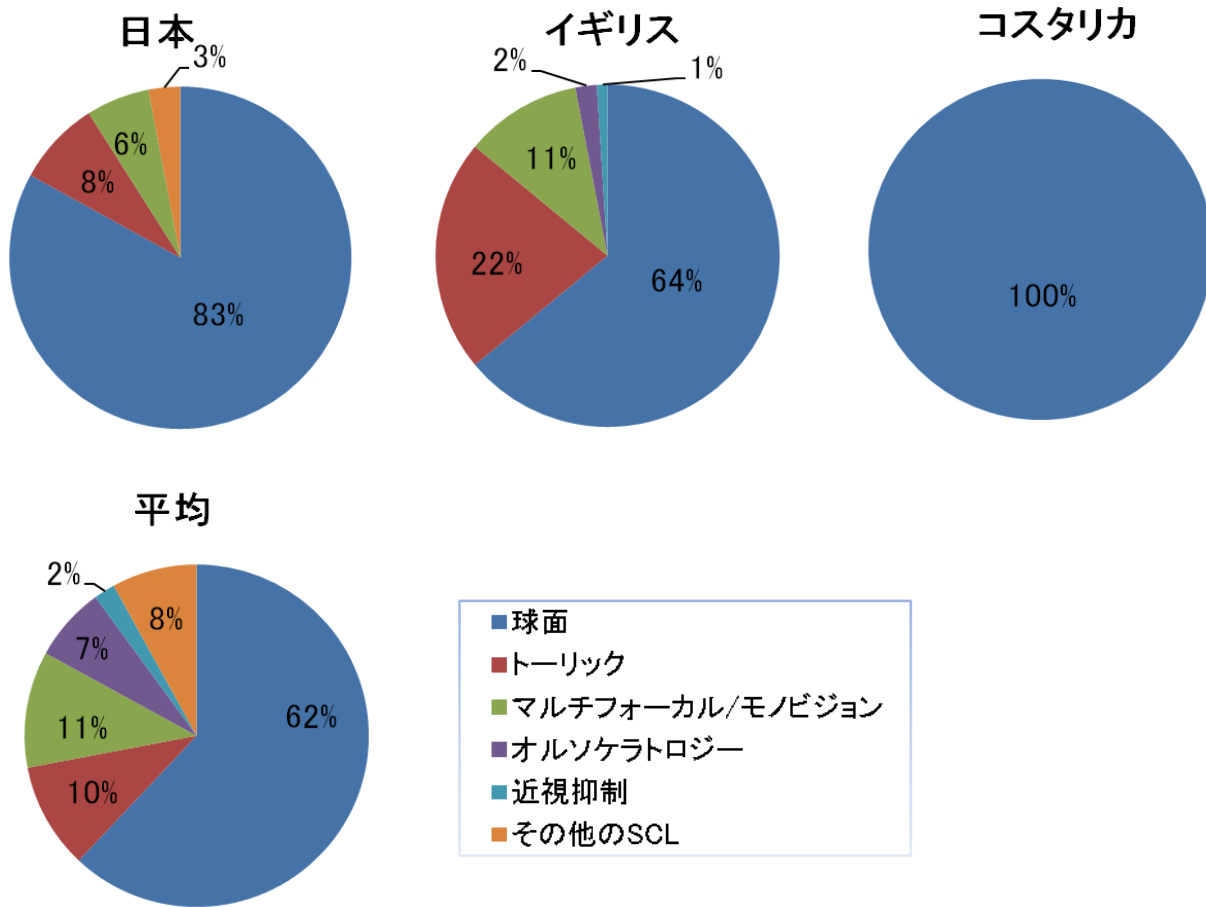


図 3. 日本、イギリス、コスタリカ、のハードコンタクトレンズ処方内訳と世界の平均

日本では球面ハードレンズの処方割合が高く(83%)、トーリックレンズの割合が世界の平均と比較して若干低く(8%)なっています。イギリスではトーリックハードレンズの割合が高く、逆にコスタリカでは全てが球面レンズでした。

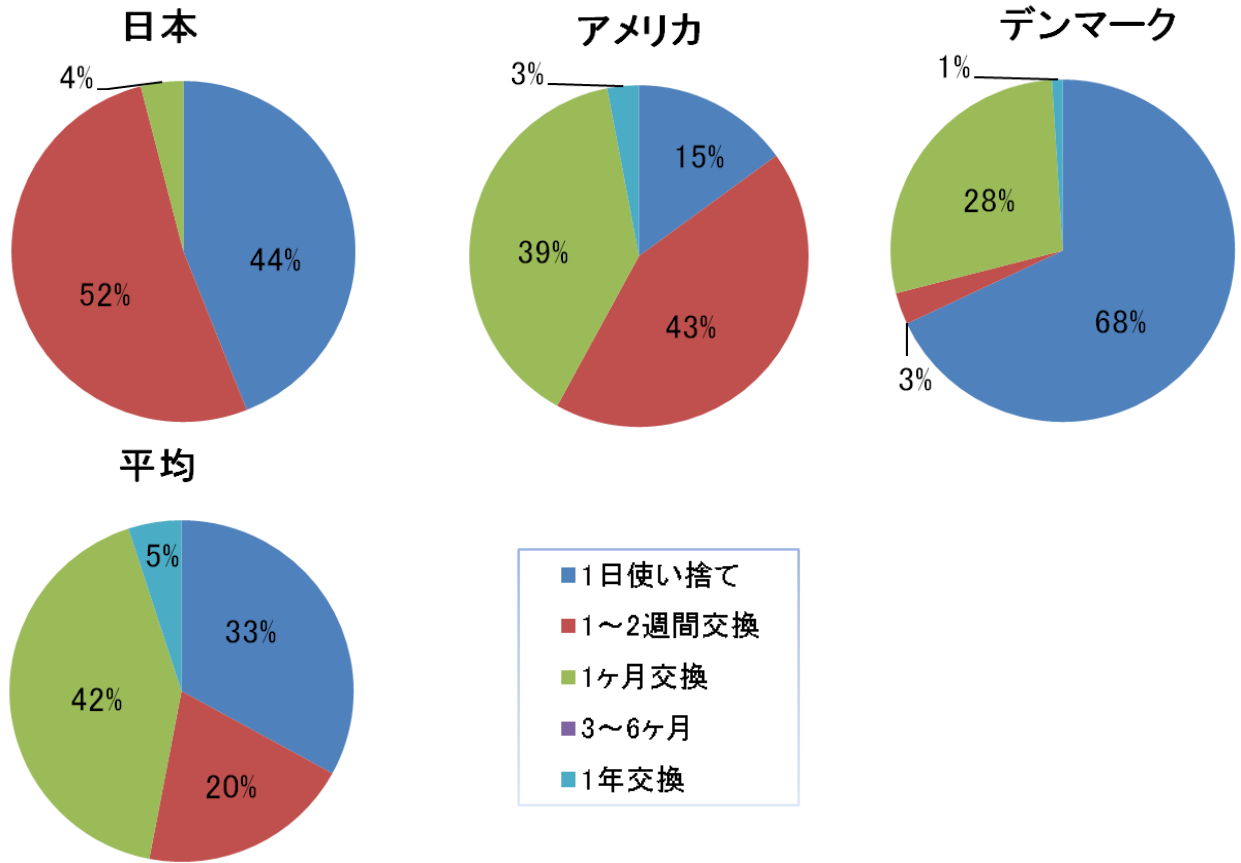


図 4. ソフトコンタクトレンズの交換時期

日本は、2週間交換レンズ(52%)と1日使い捨てレンズ(44%)の割合が高く、アメリカでは1ヶ月交換レンズが多い傾向があります。デンマークは1日使い捨てレンズの割合が最も高く、68%でした。

これは Contact Lens Spectrum が年1回まとめている世界のコンタクトレンズ処方割合の記事の一部を簡単にまとめたものです。インターネット上に Contact Lens Spectrum の記事は掲載されていますので、興味のある方はそちらをご覧ください。

<http://www.clspectrum.com/articleviewer.aspx?articleID=107854>

コンタクトレンズ 2012
Contact Lenses 2012
Jason Nichols
Contact Lens Spectrum, January 2013

Contact Lens Spectrum には、Dr. Jason Nichols によるコンタクトレンズ業界の経済および市場動向に関する記事も掲載されます。アメリカは、コンタクトレンズユーザー数が 3800 万人と世界で最大のコンタクトレンズ市場です。2012 年はアメリカ、世界ともに 5% の市場成長がありました。種類別に見た世界のコンタクトレンズの売り上げの割合は、トーリックが 20%、マルチフォーカルが 5%、球面レンズが 75% でした。

コンタクトレンズ売り上げ

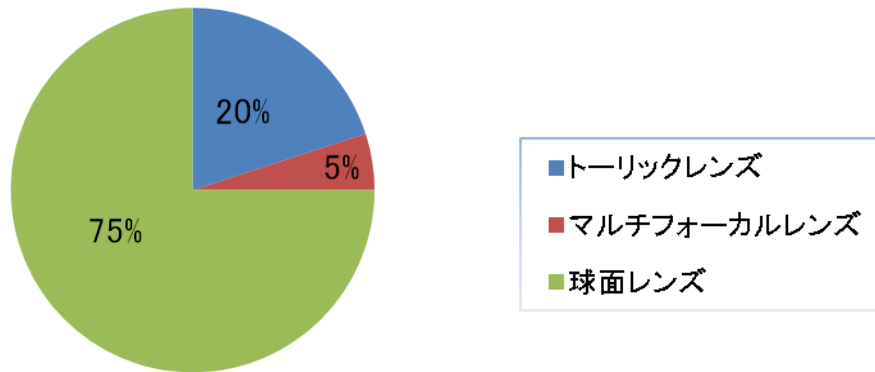


図 5. 世界のコンタクトレンズの売り上げの割合 (ソフト、ハード)

1 日使い捨てレンズの売り上げシェアは世界的に成長しており、2011 年は 37.5% でしたが 2012 年は 39.5% になっています。シリコンハイドロゲルレンズも成長を続けていて、2011 年で 43% だったのが、2012 年には 50% になりました。図 6 にアジア、アメリカ、ヨーロッパのコンタクトレンズ市場成長の比較を示しました。この記事では他の地域に関しては触れられておらず、日本がアジアに含まれているのかも不明です。アジアの国の中では韓国が 15% と高い伸びを示しています。

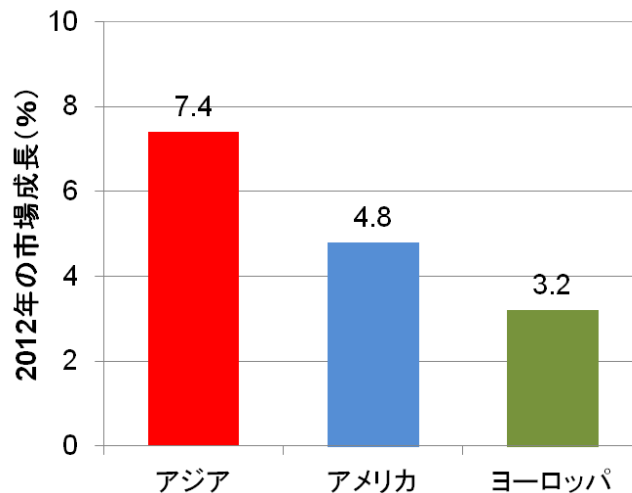


図 6. 地域別コンタクトレンズ市場の成長率

最大手の4つのメーカーのシェアは、ジョンソンエンドジョンソン、アルコン(チバビジョン)、ボシユロムが前年と比較してほとんど変化していませんでしたが、クーパービジョンは2012年にも若干増加し、シェア17%になりました。図7に4つのメーカーの世界の市場シェアを示しました。

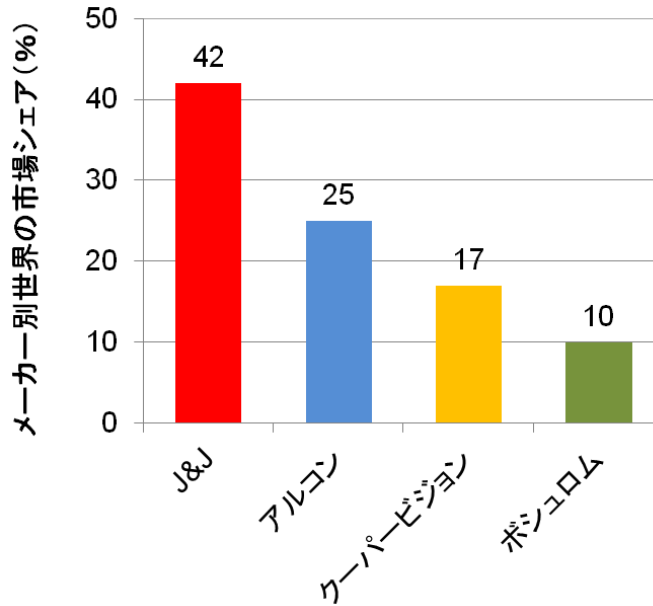


図7. 大手メーカーの世界市場でのシェア

世界で売られているコンタクトレンズの種類の中では1日使い捨てレンズの成長率が最も高いようです。特にアメリカではそのようです(図4参照)。この分類の中では、1日使い捨てトーリックレンズが前年に比べて最も成長しています。多くの眼科医はマルチフォーカル、トーリック、1日使い捨てシリコーンハイドロゲルレンズが増えてくれることを期待しています。さらに詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.clspectrum.com/articleviewer.aspx?articleID=107853>

スペインにおけるオルソケラトロジーレンズを用いた近視抑制:

視覚関連の生活の質に関してオルソケラトロジーレンズと単焦点眼鏡を比較

Myopia Control With Orthokeratology Contact Lenses in Spain: A Comparison of Vision-Related Quality-of-Life Measures Between Orthokeratology Contact Lenses and Single-Vision Spectacles
 Jacinto Santodomingo-Rubido, César Villa-Collar, Bernard Bilmartin, Ramón Gutiérrez-Ortega
 Eye and Contact Lens, March 2013, p. 153-157

この研究の目的は、近視の小児(6~12歳)について視覚関連の生活の質の面から、次の2つの矯正方法を比較することです。

- ・ オルソケラトロジー(31名)
- ・ 単焦点眼鏡(30名)

試験を始めるときに試験担当者は2つの方法のメリットとデメリットを被験者および保護者に説明し、どちらかの方法を選択させました。試験で使用したコンタクトレンズ、ケア用品、眼鏡は2年間の試験を通して供給されました。両方のグループの屈折異常はほぼ同等で、球面度数-0.75D~-4.00D、円柱度数は1.00D以下でした。オルソケラトロジーグループの子どもたちは夜コンタクトレンズを装用し、朝になるとコンタクトレンズをはずしました。眼鏡グループの子どもたちは眼鏡を1日中装用するように指示されました。装用12ヵ月後および24ヵ月後に、子ども自身が表2に示した項目に関するアンケートに記入しました。その結果、近方視と取り扱い以外の項目でオルソケラトロジーが有意に満足度が高いという結果が示されました。近方視は眼鏡の満足度が高く、取り扱いは同等でした。また、12ヵ月後の結果と24ヵ月後の結果は同じでした。試験終了時に、オルソケラトロジーを使用していた被験者の保護者は眼鏡グループの保護者よりも試験で使用した矯正方法が続けたいという意思を表明することが統計学的有意に多かったです。オルソケラトロジーは全体的に眼鏡よりも生活の質を向上できるものであると結論付けました。

表2. オルソケラトロジーと眼鏡を用いた子どもの満足度調査の結果。
 ○印がついているほうが有意($p < 0.05$)に良好であった。

	オルソケラトロジーが良い	眼鏡が良い
総合的な見え方	○	
近方視		○
遠方視	○	
症状	○	
容姿	○	
満足度	○	
活動への影響	○	
学業成績	○	
取り扱い	有意差なし	有意差なし
同級生の評価	○	
総合点	○	

(翻訳: 小淵輝明)